

巻頭特集

舞台裏をのぞいちゃおう！

イレブンナインと

演劇づくり

札幌市は、演劇が盛んな都市だ。

市内のあちこちの劇場で日夜舞台が上演され

夏と冬には約1カ月間にわたりさまざまな劇団が上演する

「札幌演劇シーズン」が開催されている。

「演劇」というと「演技」のイメージが強いが

ひとつの舞台をつくりあげるには

小道具に衣装、音響、照明など

裏方と呼ばれる人たちの存在が欠かせない。

今回は、札幌演劇界を牽引する劇団である

「イレブンナイン」代表の納谷さんに教えてもらい

4歳の采（いろは）くんが

ひとつの舞台をつくりあげるまでを体験した。

演目は『三銃士』。

いったい、どんな舞台ができるだろう。

山田いろは様



チャレンジしたのは



いろは 采くん(4歳) 潤パパ

教えてくれたのは



劇団ELEVEN NINES 代表
納谷 真大さん

おんきょう
音響



役者さんの動きに合わせてボタンを押して効果音を出すよ。剣がぶつかる音やおならの音も?!



音響、照明、小道具、衣装：裏方の仕事を体験しよう

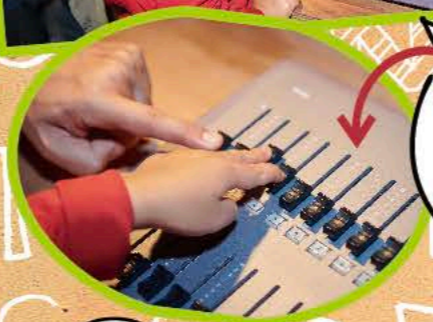
采くんは潤パパが訪れたのは、中島公園近くにある劇場「シアターZOO」。イレブンナインもよく利用している劇場だ。実は潤パパも役者で、采くんはイレブンナインの稽古場によく出入りしているそう。代表の納谷さんとも仲良しだ。「でも、自分にスポットライトがあたったり、スタッフワークを体験するのは初めてです」と潤パパ。今回は「三銃士」を上演するために、音響・照明・小道具・衣装の裏方の仕事を体験する。

まずは音響。音響は、役者の動きに合わせて効果音をあてて、舞台上に臨場感を出す大事な仕事。ボタンを押すと「ぶう〜」というおならの音や、「シャキーン」と剣がぶつかりあう音が！役者さんと息も合って、采くんは満足げ。次は照明。つまみを上下してスポットライトの強さや範囲が変わる。そして小道具づくり、衣装合わせと、着々と本番までの準備が整ってきた。

シャキーン!



「フェーダー」をスライドさせて明るさを調節するよ。ほら、スポットライトがあたった!



こどうぐ
小道具づくり

三銃士には欠かせない剣をつくるよ!



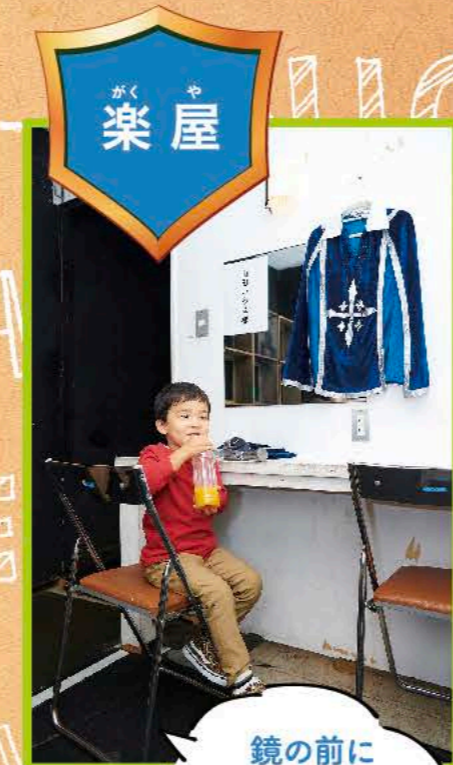
いしょう
衣装



役に入りこむため欠かせない衣装。マントを着たら、三銃士になったみたい!



いざ
ほんほん
本番!



鏡の前に僕の名前が貼ってある!!

演劇の楽しさは、演じるだけじゃない

今回の演目は、銃士隊に入った采くんが街に悪さをする悪者をやっつけるストーリーだ。衣装を着て手づくりの剣をもてば、立派な銃士隊。ステージに立ち、いよいよ本番だ。采くんはスポットライトがあたると「危ない!悪者たちが采くんを後ろから狙っている!振り返って、剣を使って闘う采くん。すると悪者たちは「ごめんなさい」と観念した様子。めでたし、めでたし。

「学会会のイメージから、「演劇」演じる」と思いますよね。でも実は、小道具や衣装、音響に照明も役者と同じくらいお客さんを楽しませようとしている。みんなでひとつの舞台をつくりあげるの、とっても楽しいんですよ」と納谷さん。本番を終えた采くんは、「音を出すのが一番楽しかった!」とキラキラ目を輝かせて教えてくれた。ひとつの舞台をつくることの楽しさを実感できた一日になったようだ。

がくや
楽屋

さあ!悪者をやっつけるぞ!



やられた〜

舞台上がって、いよいよ本番!ちょっと緊張する〜!